

佐佐木 信綱

幼きは幼きどちのものがたり葡萄のかけに月かたぶきぬ

みづうみを越えてにほへる虹の輪の中を舟ゆく君が舟ゆく

春ここに生るる朝の日をうけて山河草木みな光あり

あまりにも白き月なりさきの世の誰が魂の遊ぶ月夜ぞ

〈出典 『日本の詩歌 29 短歌集』(中央公論社、一九七〇年)〉

【著者】佐佐木 信綱(ささきのぶつな)

一八七二(明治五)年—一九六三(昭和三八)年

歌人、国文学者。三重県の生まれ。

【著書】歌集『思草』、『新訓万葉集 上下』、『作歌八十二年』など